

浄土宗 日常勤行式

香偈	・	・	・	・	・	・	・	1
三宝礼	・	・	・	・	・	・	・	1
四奉請	・	・	・	・	・	・	・	1
三奉請	・	・	・	・	・	・	・	2
懺悔偈	・	・	・	・	・	・	・	2
十念	・	・	・	・	・	・	・	2
開經偈	・	・	・	・	・	・	・	3
誦經(四誓偈)	・	・	・	・	・	・	・	3

本誓偈	・	・	・	・	・	・	・	4
十念	・	・	・	・	・	・	・	4
一枚起請文	・	・	・	・	・	・	・	5
撰益文	・	・	・	・	・	・	・	6
念仏一会	・	・	・	・	・	・	・	6
総回向偈	・	・	・	・	・	・	・	7
十念	・	・	・	・	・	・	・	7
総願偈	・	・	・	・	・	・	・	7

三唱礼	・	・	・	・	・	・	・	8
三身礼	・	・	・	・	・	・	・	8
送仏偈	・	・	・	・	・	・	・	8
十念	・	・	・	・	・	・	・	9

香 偈

願が我ん身が淨しん如きよう香によ炉こう 願が我ん心が如しん智によ慧ち火え
念ねん念ねん焚ぼん燒じよう戒かい定じよう香こう 供く養よう十じつ方ぼう三さん世ぜ仏ぶ

三宝礼

一いっ心しん敬きよう礼らい十じつ方ぼう法ほう界かい常じよう住じゆう仏ぶ
一いっ心しん敬きよう礼らい十じつ方ぼう法ほう界かい常じよう住じゆう法ほう
一いっ心しん敬きよう礼らい十じつ方ぼう法ほう界かい常じよう住じゆう僧そう

四奉請

(四奉請か三奉請のいずれかをお唱えします)

奉ほう請ぜい十し方ほう如じよ来らい入じ道とう場ちよう散さん華か樂らく
奉ほう請ぜい釈せ迦きや如じよ来らい入じ道とう場ちよう散さん華か樂らく
奉ほう請ぜい弥び陀た如じよ来らい入じ道とう場ちよう散さん華か樂らく
奉ほう請ぜい觀かん音にん勢せい至し諸しよ大たい菩ほ薩さ入じ道とう場ちよう散さん華か樂らく

三奉請 さんぶじょう

奉請 ぶじょう 弥陀 みだ 世尊 せそん 入道場 にゅうどうじょう

奉請 ぶじょう 釈迦 しゃか 如来 らいにょ 入道場 にゅうどうじょう

奉請 ぶじょう 十方 じつぱう 如来 らいにょ 入道場 にゅうどうじょう

懺悔偈 さんげげ

我 が 昔所造 しやくしよぞう 諸悪業 しよあくごう 皆由 かいゆ 無始 むし 貪瞋痴 とんじんち

従身 じゅうしん 語意 ごい 之所生 ししよしやう 一切 いっさい 我今 がこん 皆懺悔 かいさんげ

十念 じゅうねん

南無 なむ 阿弥陀 あみだぶつ 南無 なむ 阿弥陀 あみだぶつ 南無 なむ 阿弥陀 あみだぶつ 南無 なむ 阿弥陀 あみだぶつ

南無 なむ 阿弥陀 あみだぶつ 南無 なむ 阿弥陀 あみだぶつ 南無 なむ 阿弥陀 あみだぶつ 南無 なむ 阿弥陀 あみだぶつ

南無 なむ 阿弥陀 あみだぶつ 南無 なむ 阿弥陀 あみだぶつ 南無 なむ 阿弥陀 あみだぶつ 南無 なむ 阿弥陀 あみだぶつ

南無 なむ 阿弥陀 あみだぶつ

開經偈

無上甚深微妙法 百千萬劫難遭遇
我今見聞得受持 願解如來真實義

誦經 (『仏説無量壽経 四誓偈』)

我建超世願 必至無上道 斯願不滿足
誓不成正覺 我於無量劫 不為大施主
普濟諸貧苦 誓不成正覺 我至成仏道
名聲超十方 究竟靡所聞 誓不成正覺
離欲深正念 淨慧修梵行 志求無上道
為諸天人師 神力演大光 普照無際土
消除三垢冥 廣濟衆厄難 開彼智慧眼
滅此昏盲闇 閉塞諸惡道 通達善趣門
功祚成滿足 威曜朗十方 日月戢重暉
天光隱不現 為衆開法蔵 広施功德宝

常於大衆中 說法師子吼 供養一切仏
具足衆徳本 願慧悉成滿 得為三界雄
如仏無礙智 通達靡不照 願我功慧力
等此最勝尊 斯願若剋果 大千忝感動
虚空諸天人 当雨珍妙華

本誓偈

彌陀本誓願 極樂之要門
定散等回向 速証無生身

十念

南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏
南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏
南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏
南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏
南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏
南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏

宗祖（元祖）法然上人御遺訓一枚起請文

もろごし わがちょう
唐土我朝に、もろもろの智者達の、沙汰し申
かんねん ねん
さるる観念の念にもあらず。また学問をして、
ねん
念のこころを悟りて申す念仏にもあらず。た
おうじょうごくらく
だ往生極樂のためには、南無阿弥陀仏と申し
おうじょう
て、うたがいなく往生するぞと思ひ取りて申
ほか べつ し さいそうら
す外には別の仔細候わず。ただし三心四修と
もう
申すことの候うは、皆決定して南無阿弥陀仏
おうじょう
にて往生するぞと思ひ取り候うな
ほか おく こと ぞん に ぞん
り。この外に奥ふかき事を存ぜば、二尊のあわ
ほんがん せうろ
れみにはずれ、本願にもれ候うべし。念仏を
しん ひと いちだい ほう
信ぜん人は、たとい一代の法をよくよく学す
いちもん ふち ぐ どん み
とも、一文不知の愚鈍の身になして、尼入道
あまにゆうどう
の無智のともがらに同じうして、智者のふる
む ち
まいをせずしてただ一向に念仏すべし。
いっこう ねんぶつ

証しょうのためりょうしゅいんに両手印りょうしゅいんをもつてす。

浄土宗じょうどしゅうの安心起行あんじんきぎょうこの一紙いっしに至極しごくせり。

源空げんくうが所存しょぞん、この外ほかに全く別義べつぎを存ぞんぜず、滅めつ後の邪義じゃぎをふせがんにがために所存しょぞんをしるし畢おわんぬ。

建曆二年正月二十三日けんりやくにねんしょうがつにじゅうさんにち 大師在御判だいしざいごはん

撰益文しょうやくもん

光明徧照こうみやうへんじょう 十方世界じつぽうせかい

念仏衆生ねんぶつしゅじょう 摄取不捨せつしゆふしや

念仏一会ねんぶついちえ

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
(繰り返しとなえます)

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

総回向偈

願がんに以此し功德どく

平等びようどう施せ一切いっさい

同どう発ほつ菩提ぼだい心しん

往生おうじょう安樂あんらく国こく

十念

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

総願偈

衆生しゅじょう無む辺へん誓せい願がん度ど

煩惱ぼんのう無む辺へん誓せい願がん断だん

法門ほうもん無む尽じん誓せい願がん知ち

無む上じょう菩ぼ提だい誓せい願がん証しょう

自他じた法ほう界かい同どう利り益やく

共ぐ生しょう極ごく樂らく成じょう仏ぶつ道どう

さんしょうらい

三唱礼

（「三唱礼」か「三身礼」のいずれかをお唱えします）

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

さんじんらい

三身礼

南無西方極樂世界本願成就身阿弥陀仏
 南無西方極樂世界光明攝取身阿弥陀仏
 南無西方極樂世界來迎引接身阿弥陀仏

そうぶつげ

送仏偈

請仏随縁還本国 普散香華心送仏
 願仏慈心遙護念 同生相勸尽須來

十念じゅうねん（低声十念ていせいじゅうねん）

南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつ

南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつ

南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつ

南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつ